

言

義

土木學會誌 第十四卷第四號 昭和三年八月

LIAO RIVER UNDER INTERNATIONAL ORGANIZATION

(第十四卷第一號所載)

會員 工學博士 中山 秀 三 郎

筆者は日露戰役直後滿洲に遊び營口に至り遼河口を視察せし時同河水の濁度の甚しきには一驚を喫したり、勿論時は八月にて濁度の大なる時季なりしも同所在任の故長崎工學士の言には冬季に於ても猶河水は濁れりとのことにて所謂百年河清を待つと云ふ支那文章の語句は空文ならずして實在することを感じたり、此の如く同河川の一部にても實地を見學せし關係上筆者は遼河に關する岡崎博士の論說には興味を覺ゆること多く特に今回の silt に關する有益なる調査の發表には大いに敬意を表したり。

抑同河水の濁度は如何にして生ずるものなるや、氣象上冬季は降水量至つて少く且河川は平野を貫流する處多く従つて勾配は緩にして流速は大ならざるにも關せず此の如き濁度を有するは其の源因何れに存するか、或は地質の關係にて河床は容易に流水の爲洗掘され浮游物を生ずるものなるや、又は河の屈曲して流るゝ處に於て河岸の洗掘や崩壞を生ずる爲其所より土砂は浮游して來るものなるや、且一度浮游すれば容易に沈澱を生ぜざる如き土質なるや、之等の點に付き調査せられたる資料のあるなれば之を發表せられむこと切望す。

又屈曲部の河岸の防禦に Concrete mattress を用ゐる好果を得ることを信ずる筆者も其の一人なり、然して此の如く防禦したる區域の上流及下流には河床に變動を生ぜざるや其の結果の判明せしものあるなれば示教を乞ふ。